

# Counseling Room

家庭問題カウンセリングルーム

## 第133回

公益社団法人  
家庭問題情報センター 笠松奈津子

## 長男の離婚協議について 案じている母親のケース

和子さんは、長男夫婦の離婚の話し合いが、長男や自分たちの思うようには進んでいないと感じ、不満を抱いています。



**和（和子）** 長男の妻が子どもを連れて実家に帰ってしまいました。その妻は常識はずれというか、変わっていて、私には理解できないのです。  
**カ（カウンセラー）** 理解できないというかと？

**和** 長男は子どもの父親ですから、当然に子どもに会わせてほしいと何度も足を運びましたが、離婚が成立するまでは会わせないというのです。

そもそも、長男の給料はすべて管理してわずかな小遣いしか長男に渡さなかった妻です。子どもたちの着るものも安っぽいものばかり。見かねて、子どもたちに使うようにとお金を援助しても、何に使ったのか、まったく代わり映えしない様子です。長男とも会話

が成り立たないのです。結婚するまでは、それなりにお付き合いをしていたのですけれど。いわゆる「自己中」というのでしょうか。向こうの両親も、娘が変わっているとは一言もいっていませんでした。

長男も私たちも、騙されたようなものです。そんなところで、子どもたちが育てられるかと思うと、とても心配です。

**カ** 自己中心的とおっしゃるのは、実際に体験されたことなのでしょうが、

**和** そうではないですが、長男から聴いている様子では、普通ではありません。  
**カ** ご長男はどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

**和** 長男本人はどう考えているのだから。私には、聴けば聴くほど、自分勝手な

人とは思えませんよ。

子どもたちを、うちに泊ませたいという、疲れるから夕方5時までには帰すよというのです。せっかく楽しく遊んで、そこからまた小1時間かけて向こうのうちまで帰るのは、かえって疲れるではないですか。こちらに泊まって、翌日ゆっくり送り返すほうが、子どもたちにも楽にきまっているでしょう。

**カ** ご長男はお子さんに会えるようになったのですか。

**和** 妻側が直接の話し合いに応じないので、やむを得ず弁護士を介して話し合っています。

妻側は言いたい放題、請求し放題。ようやく、なんとか子どもに会えるよ

うにはなっただのですが、これがまた、妻側の要求に応じるしかなかったのです。はじめはほんの1時間ほど、指定された公園で遊ぶだけ。おまけに向こうのおじいさんが見張っているのですよ。こんなことってありますか。

**カ** お子さんご長男が会うことについて心配なことがあったのでしょうか。

**和** あるわけないじゃないですか。長男は、ほんとにまじめで子煩悩で、教育熱心な父親です。

なのに、あの人は、子どもは子どもらしく自然に育てればいいと、ほったらかしです。長男のことを、子どもを虐待しているとまで言うのです。

**カ** そうですか。まずは公園で1時間というところで始まったのですね。

**和** 向こうの言いなりにならず、最初からうちに泊まりに連れてこられるようにした方がいいと私は言いました。子どもたちもそれを望んでいるはずですよ。それなのに、長男は弁護士のお話を聞いて、子どもたちに会うことを最優先したのです。

**カ** そうだったのでですね。それで今ではおじいちゃん、おばあちゃんのおうちにも来られるようになったのですね。

**和** ここまで2年近くかかりました。せっかくつけた弁護士が、妻よりの説得をするなんてどういうことでしょう。

**カ** ご長男は辛抱強く、お子さんたちと

いい面会交流を重ねてきたのですね。はじめのときは、家に帰って泣いていました。本当に性格がいい子なのです。

**和** それなのに、あの人と結婚したばかりに、可哀そうでしかたありません。弁護士さんを介しての離婚協議について心配されているのですね。

**カ** こんなことになって、こちらは苦しむばかり。何故まじめにやってきた長男がこんなにも責められたり、お金を要求されたりしなくてはならないのでしょうか。あちらは離婚を求めているのに、成立するまでの生活費をよこせといってきたのですよ。どこかで相談して、離婚までの生活費を請求できると聞いたそうです。おかしいでしょう。

**和** ご長男自身、話し合いに納得していないのでしょうか。

**和** それがいいというか、最近では「自分にも悪いところがあった。お互いに相手の気持ちを聴いて、じっくり話し合う姿勢が欠けていた。争いを長びかせても、子どもたちがつらい思いをするだけだ」というのです。上の子どもに、「どうしてお母さんのことを怒ってばかりいたの」と責められたそうです。それに、「最初のうちは、子どもと自分が会う日が近づくとも妻は暗い顔をしていたらしいが、今では、妻の両親が反対しても、父親であることは変わりないからと妻は言って、子どもたちを送り出してくれると子どもがいっていた」とも言います。

いちばんつらいのは長男でしょうけど、自分自身で決めて進めているので、見守るのが親の役目なのでしょう。ついつい、正当な権利を主張した方がいいのではと思ってしまうのですが。

**カ** 和子さんもお自身のお子さんのことを思い、ご長男もお自身のお子さんのことを思っているんじゃないですか。

**和** 元どおりにとっているのは果たせぬ思いなのでしょうね。孫たちが父親である長男とわだかまりなく会えるよう、穏やかな関係になることがいいのかもしれないですね。

.....

初めは自分と相いれない考えの長男の妻を、「自己中心的」と決めつけたり、弁護士や妻への助言者にまで立腹していた和子さんですが、不満を吐き出すうちに、時間をかけて冷静に協議を進めている長男の変化や、その子どもたちへの思いを受けとめ、見守っていることが気持ち落ち着かせたようです。

すべてを一度には納得できそうにはないが、自分は長男の話を聴くだけに留め、長男自身が疑問を感じているようなら相談に来ること

を勧めてみるという感じでいきました。

